

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	かがやきクラブ				公表日	令和7年1月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	0	活動内容やグループごとに部屋を分けたりエリア分けをすることで環境調整を行っている。活動しやすいよう場の構造化をしている。活動ごとに部屋を分けているため、ゆとりをもってスペースを使用することができている。宿題のスペースも設けているため、柔軟に使うことができている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	0	小集団活動の取り組みを実施し、職員との1対1の関わりから子ども同士での関わりへシフト出来るよう意識している。職員一人一人が全体を見ることが出来るよう意思統一を行っている。トラブル発生時には、情報の共有を行い、適宜対応を行っている。	職員数は適切であるが、こどもの興奮状態の時などは特に職員同士の連携を強化して対応することが必要な場合がある。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	0	クールダウン室、話を聞く場所、体を動かす場所、工作をする場所など、場の機能を分けている。予定などを事前に掲示して知らせている。視覚的な掲示物を用いて情報伝達を行っている。	日常的に使わない掲示物もあるため、こどもの注意力・集中力に合わせて配慮していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	毎日、掃除と消毒を行っている。各活動に合わせて、机の配置等を変更している。興奮したこどもの対応に関しても、個室やコンテナ室を適宜活用し環境調整を行っている。室内でも体を動かせる運動スペース、宿題をするスペース等を設けている。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	使用目的を明確化及び限定し、どの子どもも必要に応じて個室を使用できるようにしている。クールダウン室を設け、イライラした際に落ち着けるようにしている。こどもの状態に応じて、適宜個室等を活用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	0	毎日の打ち合わせや毎月のスタッフミーティング等で、支援について検討を行い、支援の見直し等、業務改善に努めている。子どもについての振り返り、気になる点を話し合い、目標設定を行っている。紙面に残し、後からでも確認できるようにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	アンケート実施時には、その集計結果を基に、検討する場が設けられている。保護者からの意向等を共有し、PDCAサイクルを実施している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	日々の打ち合わせ時に意見を出し合い、改善につなげている。常に意見の表出機会を設けている。管理者や児童発達支援管理責任者との面談等が行われている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	0	定期的な指導監査が行われ、業務改善が行われている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	定期的な研修を行い、事例理解力を高めている。虐待防止等、様々な研修の機会が確保されている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	おたより等を活用し公表している。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0	定期的に保護者や子どもと面談を実施し、ニーズの把握や計画書の見直しを行っている。行動観察、描画アセスメント等により、客観的に評価・分析し計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	職員全員で検討会が適宜開かれている。共通認識のもとで計画が作成されている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0	職員間で読み合わせを行っており、計画を共有している。また、その際に支援内容の共通理解も行い日々の支援に当たっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	共通のチェックリストを使用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0	具体的にどのような支援が必要かを話し合ったうえで、必要項目を設定している。検討会等も適宜開催している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	利用する子どもやその日の状況に応じて、職員間で協議しながら活動を考えている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	固定化しないよう、定期的に話し合いの場を設けている。子どもからも要望を聞き取り、プログラムを立案している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	個別活動では遊戯療法を実施し、こどもそれぞれの課題に取り組む時間を作っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	前日のこどもの様子についての話し合いや振り返りを行い、その日の支援内容の打ち合わせを毎日行っている。役割分担、情報共有等、綿密な準備を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0	当日の支援終了後、または翌日等に適宜行っている。職員間での打ち合わせを密に行い、実施した支援について振り返り、見直しを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	サービス提供記録へ記入し、特定のこどもについては日々の行動記録をとり、支援の見直しや家族支援・本人支援に活用している。モニタリングに合わせ、適宜振り返りを行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	必要に応じて適宜モニタリングを実施している。また、見直しを行う際は会議を開催し、適切な見直しとなるよう心掛けている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	0	「4つの基本活動」は基本として組み込んでいる。こどもたちが意欲的に取り組めるプログラムの立案に力を入れている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	各活動に関して、複数の選択肢が用意されている。また、こども同士で相談・選択できる場を設け、職員に活動の提案をし、自分たちで活動を選ぶことが出来る機会を設けている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	主に児発管が参加しており、会議前に担当職員からの聴き取りやサービス提供記録をまとめることで、こどもの状況を把握し出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0	各関係機関と連携し、児童発達支援管理責任者をはじめ、こどもの状況をよく理解した職員が対応できる支援体制を取っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0	学校へのお迎え時には、その日の様子など引継ぎを行っている。下校時刻については、学校から直接連絡がある場合と、保護者を通じて連絡を受ける場合があるが、確実に把握出来るようにしている。	こどもの状態の共有等、学校との連携を今以上に強化していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	0	就学前に園での様子を見学し、こどもの状況を把握したり先生との情報共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	0	記録・資料等は常にまとめてあり、必要に応じて情報提供が出来る体制を取っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9	0	研修の機会が設けられており、支援に関しての助言等を受けることが出来ている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9	0	隣接するデハ1にこご児童クラブとの日常的な交流がある。行事の際には、隣接する児童クラブやさとがた保育園と互いに招待し合うなどの交流の機会がある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9	0	定期的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	より支援が必要なこどもについては、毎週面談を実施し、こどもの課題について情報を共有している。連絡帳を活用し、活動の様子を写真やコメントで伝え情報共有をしたり、お迎え時に様子を伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	0	情報提供に関しては常に行っており、研修の機会についても今後回数を増やしていくことを検討している。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	契約時や更新時に説明の機会を設けている。必要に応じて、個別に説明を行う等の対応も行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	会議の開催や、こども・保護者との面談を行い、本人・家族の意向を確認する機会を設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	0	面談にて説明を行い、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	必要に応じて面談の機会を設定し、相談に応じている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	9	0	保護者会を実施し、保護者会の運営をサポートしている。職員も積極的に保護者会の活動に参加し協力している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	苦情対応窓口を設置し、早急に対応する体制を整えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	毎月の「かがやきクラブだより」や臨床心理士からの「こころの便り」を発行し、日々の様子や支援について情報発信をしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	個人情報を含む重要書類の保管場所を定め施錠することや、USBの使用を禁止する等、情報の取り扱いには十分に留意している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	視覚支援として掲示物への配慮を意識している。文字や図の大きさ、色、漢字にはふりがなをふるなど工夫している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	1	地域との交流を意識し、子どもたちの活動として、地域のJA女性部と共同で河川の浄化活動を実施したり、地域で音楽活動を行っている方を招いての演奏会等の交流を行っており、地域に開かれた施設として運営を行っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	研修等で、マニュアルの確認のための会議を開催し、適宜周知の機会を設けている。また、感染症対応については、机上訓練を行い、BCPの検証を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	法人全体での訓練も合わせ、年間5回の各訓練を行っている。また、防犯に関しては、法人全体で専門家を交えた体験型研修も行っている。子ども日々の活動で避難する際の並ぶ練習を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9	0	子どもの体調についての状態や服薬の状況、服薬の変更等の情報は、その都度職員で共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	個々の子どものアレルギーに配慮し、アレルギー対応のおやつ等の提供や内容確認、検食等を実施している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	年度初めに安全に関する研修を実施している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0	安全確保の方法について保護者と情報を共有している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	ヒヤリハットの作成や回覧を行い、全職員が確認し共有するよう徹底している。また、いつでも閲覧出来るようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	年間4回の研修を実施している。虐待の可能性のある出来事を話し合い、適切な支援が提供できるよう努めている。支援での困り感や悩みを話し合い、予防に努めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	0	事前に身体拘束についての同意を得ている。		